

# ひめまつ

31



宇都宮短期大学附属高等学校生徒会



ひめまつ 目次 第三十一号

表紙……杉山吉伸 題字……石川木魚 写真……写真部・伊東礼一  
 「巻頭言」家政科がんばれ!! 校長 須賀 淳 1  
 身近で形式ばらぬ生徒会を(新生徒会長に就任して) 浜口尚美 4  
 会員の意識と団結心の高揚(学校祭の成功が印象的) 篠崎紀夫 5  
 ひと筋 和を根本理念として 須賀友正理事長(下野新聞より) 7

詩

校内読書感想文コンクール入賞作品集

伊東 雅子・千田佳珠子・石田 仁美・柴山 恵一・佐藤 貴子・山中 幸子・石川 清恵 8  
 斎藤 町子・福田知栄子・石島 美恵・小久保悦江・大森 容子・大阿久伸江・原口美智子  
 罪と罰 神山 美咲子  
 高瀬 舟 山口久美子  
 アンネの日記 時庭 佳代子  
 友情 関根 和子  
 フランス革命小史 佐藤 文子  
 人生論(実篇著) 中丸 三千絵  
 人間失格 阿久津 晴美  
 杜子春 中沢 か代子

△特集▽私はこう生きたい

村田 美代・鈴木 啓子・岩井 秀子・小林久美子・羽石 純子・後藤久美子・平沢 町子 29  
 野村 典子・平出 裕子・塩野目洋子・吉永 夕子・鈴木志津代・飯野 幸恵

▽クラブこの一年

◇短歌

作品・「やまぼうし」 「阿多多羅のほとりにて」 54 俳句 手塚 武 57  
 ◇各種入賞作文集 56



修学旅行 伊勢・高野山・四国

岩井秀子・小林久美子・宇田広美・石原千代子・若松尊子外 64  
 遠藤万里子・山崎智恵子・泉田光子  
 ◇楽しかった裏磐梯キャンプ 印南一幸 68

宇短大附属高・私立女子高の名門(下野新聞記事)

わしらのホームルーム 一年・二年・三年

〔随筆コーナー〕先生方の談話室 76  
 すがすがしい話 廻谷 和子  
 涙の自動車練習 須賀 淳 みちのくへの旅 大谷 悦子  
 凝縮と拡散の詩人伊東静雄 稲葉 実 アイ・ラブ・ユウ 渡辺 清  
 空間を置いて世俗を見る 平沢 映一 ヨーロッパを旅して 高野沢良子  
 山と川とのあいだ 寺内 恒夫 世の中変わりましたね 小林 茂

創作 少女期 中沢登美子・短かな短かなお話 石原良子・家出未遂 遠藤万里子 89  
 主張 礼法を正そう 石塚 秀子 94

学園ニューストピック

読書感想文入賞 生徒会役員選挙 P.T.A 研修旅行 浜野シゲノ先生弔詞・藤の会歌曲の夕 生徒総会外 96  
 石橋・鹿沼・清原・鳥山・日光・黒磯・総和・泉が丘外

▽各地学友会の活動 103  
 家政科技術検定について 検定合格一覧 112  
 昭和五十一年度就職決定状況 113  
 昭和五十一年度学校行事 職員住所録 118  
 編集後記・奥付△ 120

入学試験点描



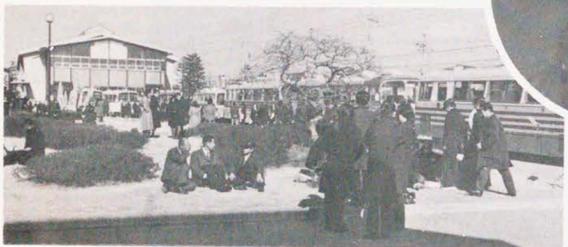
→ようこそ  
お待ちしております



←賑々しく！  
バスを駆って



↑上がっては  
いけませんよ

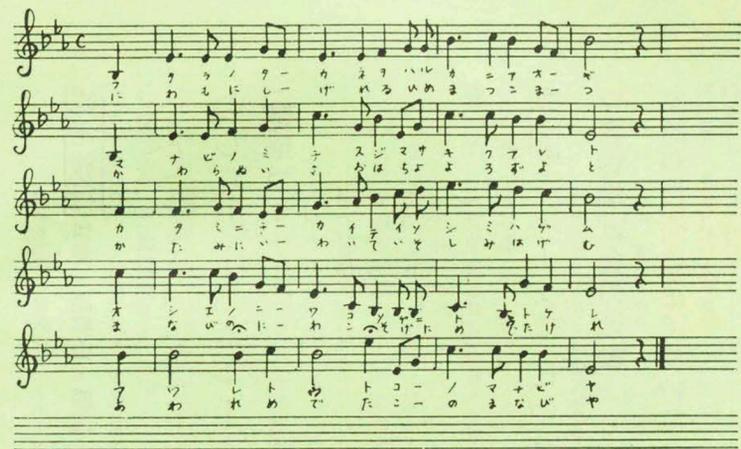


↑立派だなあ、きれいだなあ、感じが  
いいなあ！ ちょっぴり不安感も



→あつたぞ！  
あつたぞ！  
合格発表

校歌



宇都宮短期大学附属高等学校校歌

二荒の高嶺を 遥かに仰ぎ  
 学びの道筋を まさきくあれど  
 かたみに誓いて いそしみ励む  
 教えの庭こそ げに尊けれ  
 あわれ尊 この学びや

庭面に茂れる 姫松小松  
 変らぬ操は 千代万代と  
 かたみに祝いて いそしみ励む  
 学びの庭こそ げに芽出度けれ  
 あわれ芽出度 この学びや

# 《特集》 学 校 祭 “76”

→ “あなたの部屋に潤いを”  
手塚先生の色紙即席揮毫会  
— 文芸部



→ はちまきも  
さっそくと  
名入りで!



← “馳走なら  
任せておき”  
— 調理科

→ まあ、ご立派!  
くろうとも感嘆  
— 和裁陳列室



→ 時代別に  
見事な生徒作品  
— 服飾デザイン部



↓ デパートの売場では?

← “こちら宇短大  
附高の洋裁部



← 人気満点の  
バトントワリング

→ オールド組が思わずオオ!  
学校のことが一目で  
— 校史室



← やりましたわよ  
— 書道部



→ “おいしいイイツ”  
どこかで聞いたような  
— 食堂は今や花盛り





↑生徒会役員11人衆、ことしは女性軍ががんばりました



↑音吐朗々と気合いも鋭く新年かるた会



←優勝は誰？  
校内弁論大会



↑和やかに交換音楽会・神戸山手女子高(左)と本校音楽科(右)



→飛鳥路の印象  
修学旅行のアルバムより



←盛んな青春の火  
裏磐梯岬キャンプ場

|||||| 卷頭言 |||

家政科がんばれ!!

校長 須賀 淳



▼▼▼▼▼  
本文は、校長先生が文部省の依頼を受けて  
文部省の機関誌「産業教育」(昭和五十年十月  
号)に寄稿されたものである。好個の一文な  
ので特にお願ひして転載することにした。  
▼▼▼▼▼  
(編集部)

高等学校教育のあり方、とくに職業学科の  
今後の方向についての問題が、現在教育関係  
者はもちろん一般の人びとの間にも大きな関  
心を呼んでいる。文部省においても、「職業教  
育の改善に関する委員会」を設けて真剣な審  
議が続けられており、本年度に入ってから、農  
業、工業をはじめ、各学科についての産業教  
育教科調査委員会議の報告が出され、本誌にお  
いてもくわしく紹介されている。農業、工業  
等は特に問題も多いようであるが、本稿では  
女子が大部分を占める家庭に関する学科、  
その代表ともいえる家政科について、世の関  
心を高めるために少しく触れてみたいと思  
う。  
家政科については、他の職業に関する学科  
にもみられるように、全国的にはその生徒  
数が年々減少の方向をたどり、学校現場にお  
いても家政科に対する理解が極めて低いのが

状である。  
このため、県立学校などでは普通科志向の強い世論をバックに、転科や学級減の対象として家政科がもっともねらわれやすく、このことが家政科の生徒数の減少に影響を与えている。

果たしてほんとうに家政科はそんなに魅力のない科なのであろうか。少なくとも高校側の努力によってある程度その振興を図ることができるのではないかと私は考えている。家庭科専門の教員ではないので理論的な観点から述べることはできないが、五つの学科をもつ高校の校長として、その体験的な観点から家政科の振興について次のようなことを考えているのである。

一つは、人間の能力には思考型能力と技能型能力とがあるそうであるが、高校進学率が九〇%を超えている現在、多くの生徒が普通科志向の風潮に流されて漫然と普通科を志望し、家政科を回避する傾向がある。したがって技能型の生徒もほんとうに生きがいをもって意欲的に勉強ができるように家政科の教育内容を考慮し、とくに実技を中心とした教育を徹底することが必要であらう。

次に、直接その任に当たる高校の校長および一般教員の家政科に対する理解を深めることである。現在の県立高校などの家政科設置の実態をみると、その多くが普通科等に家政科が一、二学級ずつ併設されている場合が多く、これらの学校では学科間の融和に欠けているようである。しかもこれに一般教員や校長の理解不足が加わっている。家政科の専門教科の教員はほとんどが女性であり、また数も少ないので、ともすれば学校内における発言力が弱く、このため、家政科の意気が上がらず、校長もまたお荷物をかかえているという感を持ち、家政科生徒の進学・就職についての関心も薄い。

私事にわたって恐縮であるが、私の学校は家政科の生徒が各学年八クラスで四百五十人、調理科が二クラスで、百人、合計三学年で千七百八人の家庭に関する学科の生徒がお

り、この数は全国一である。そして家政科の教育課程は、普通教科・科目は学習指導要領の最低単位にとどめ、残りのすべてを専門教科・科目によって編成し、三十余名の家庭科教員が徹底した実技を中心とした教育を施している。このように生徒数においても教員数においても他の学科より優勢な家政科は、生徒が普通科等の他の学科の生徒に劣等感などをもつこともなく、校内活動においても他科の生徒をリードしていきいきと活躍している。

また、家政科生徒の進学・就職の問題であるが、専門教科・科目を多くとると必然的に普通教科・科目の単位数が減るので、試験科目が普通科目だけの一般大学を受験する場合は不利となるが、現在では家政系の大学はその多くが推薦入学の制度をとっているので、普通の成績であれば推薦入学によって大学進学をすることが容易であり、また一般の試験入学においても、家政系の大学は、他の学部より比較的容易に入学できる傾向にあるようである。これらの生徒が大学に入学した場合には、高校時代にたたくこまれた家政関係の実力は、普通科出身者をはるかに凌駕することになる。一般的にいえば、普通高校から大学の家政学部に進んだ教員は必ずしも実技の実力が十分でなく、全国高等学校家庭科検定試験の一級受験の指導などには、年輩のベテラン教員に頼る場合が少なくない。蛇足ながら、大学の家庭科教員の養成については、理論にかたよることなく、実技も十分身につけさせてほしいものである。また、公立高校の家庭科教員の採用試験においても、実技試験を課していない県が多く、課している場合でも前記の家庭科実技検定試験の三級程度の課題が多いそうであり、これなども家庭科教育振興のうえから再考してほしいものである。

就職については、家政科卒業者の多くは、職場で人間関係においても実務遂行の態度も良好であると評価されているが、なお、その専門性を生かせる職場に向けるよう指導することが大切であると思う。被服製作、食物調理等の専門職場はもちろん、たとえ販売方面であっても、それぞれの特技を生かせる専門的な売場で活躍することができるよう配慮することが望ましい。

会長には、この評議會を、より一層活発に運用させられたいと切に要望いたします。

なお、年度末にあたり、反省材料をいくつか検討してみますと第一に、生徒総会のマンネリ化をどうするかという大きな問題があります。生徒全員に密接なテーマを事前の評議會、そして学級での討議を活発にしていこうことにより、あの熱気と貴重な時間を無意味なものとしないうですむのではないかと思っています。そのためには、まだ総会の形式に一考の余地があると思います。その点を来年度はとり上げてみてはいかがでしょう。また校内球技大会、弁論、合唱コンクールなど、クラス一丸となって、和やかな中にもお互いがよきライバル同志となる行事などは、これらを通してふれ合う人と人との温かさ、協力することのすばらしさを私たちに教えてくれたという点で、これらもぜひ継承してもらいたいものばかりです。特に、最大の行事である学校祭が、今年も盛大かつ好評のうちに催されたことは私にとって非常に感銘深く感じている次第です。さらに、チャリティバザーは今年も盛況裏に終り、多額の収益金を歳末助け合い運動に協力することができましたことは、皆さんの協力の賜物と感謝するとともに、生徒会のスローガンであるやさしい心づかい運動の実践となり、まことにうれしく思っております。

こうしてふり返ってみますと、本当にいろいろな事がありました。要は生徒会発展のために大切なことは、何よりも一人一人が会員としての意識を持つことであると思います。そして何事においても、自主的に取りくむことの重要性を自覚すること、つまり、生徒会のこととは自分のこととしてとりくむことにあると思います。全員が一致団結して和を結び、ひとたび決定したならば積極的にそれに取りくもうとする気持ちが、困難な道を開いてくれるものであると深く感じるのであります。

これまで私が何とか無事に、一年間会長という重責を果たす事ができましたことは、ひとえに顧問の先生方をはじめ諸先生方の暖かい御指導と生徒会の方々の御協力によるものと心から感謝いたしております。今後とも会員皆さんの手によって他校に負けないりっぱな生徒会をつくり、より充実した学園を築きあげ、有意義かつ、悔いなき高校生活を過ごされよう祈念して、私のごあいさつといたします。

## ひと筋

「下野新聞」掲載



### 和を根本理念として

須賀学園理事長

須賀友正さん

「一人は一校を代表する」をモットーに、半世紀以上も教育に専念してきた須賀さんは、病氣以外は日曜日でも学校へ顔を出す。「学校こそ私の生きがい」ということばにピッタリの人である。

須賀さんは明治三十四年、須賀学園の創立者・須賀栄子氏の次男、須賀正雄氏の次男として宇都宮に生まれ、大正十二年、東京工大機械科を卒業と同時に宇都宮工業高教諭となり、同校の創設時代に参画したが、昭和九年、栄子氏の死去に伴い須賀学園の校長兼理事長になった。三十三歳のときだった。

「のんきな教師生活から突然、立場が逆転して学校経営に当たらなければならなくなつて戸惑いました。運命のいたずらですわえ」

と、当時を振り返る。しかも宇都宮工業機械科主任を兼任しながらの学校経営。不況期で生徒も減り、経営の困難な時だった。

さらに昭和二十年七月の宇都宮空襲では、校舎を焼失してしまつた。幾多の困難を通して、須賀さんが培ってきたものは「和」を根本とした教育理念である。だから戦前派は上野百貨店を「上野さん」と呼ぶように、宇都宮大附属高に対しても、親しさからいまだに「須賀さん」と、「さん」付けで呼ぶ。

「礼法を正す」己れに厳しく他人には寛大に「を生活の軸として、一人一人の生徒が個性や能力、適性、希望などを生かしながら、だれからも信頼され、愛される全人間形成」

「四十一一年間、この方針を貫いてきました」

「下野新聞」51・11・29付「繁栄への道・私立学校」掲載記事より転載

と物静かに語る須賀さんは、「和」をもって貴しとなす」と自書した座右の銘を披露する。これは建学の精神にも通じよう。師弟愛を物語るエピソードも数多い。全国大会などで、寝食をともにして歩いたソフトボールチームの生徒たちは、今でも須賀さんに年一回、茶話を催してくれるという。

ところで危機に立たされているという私学については「ただ、公立校のあとばかり追つてはダメです。平凡な方がいい方が、特色を伸ばした教育をしなければ私学は、やがて自滅しますよ」と力説する宇都宮大附属高校にユニークな音楽科、調理科を設置したのもその実証である。

県私学審議会委員や県私立中学、高等学校連合会長を長くつとめ、それらの功績で昭和二十七年に藍綬章、四十五年に勲三等瑞寶章を受けた。須賀さんの歩みはそのまま私学の歩みにもつながっている。

現在、須賀学園理事長、宇都宮短期大学学長のほか県私学連合会長、県公安委員長も務めており、まだまだ現役を引退させられない。

特集

学園ニューストピック

深く心に響くもの

校内読書感想文入賞者

夏休中の課題として提出された昭和五十一年度校内読書感想文コンクール応募作品は約二六〇〇、その中から、内容・表現・分量等について審査の結果、次のとおり入賞者を決定し、発表された。各学年三位まで、賞状と副賞(図書券)および賞品を贈り、それ以下の若干名を佳作とし、賞品を贈って表彰した。

- ▽二年
一位「罪と罰」 15組 神山美咲子
二位「嘔吐」 6組 滝沢 公子
三位「高瀬舟」 13組 山口久美子
一位「アンネの日記」 14組 時庭佳代子
二位「友情」 16組 関根 和子

- ▽一年
三位「フランス革命小史」 13組 佐藤 文子
一位「人生論」 15組 中丸三千絵
二位「人間失格」 10組 阿久津晴美
三位「杜子春」 1組 中沢加代子
▽佳作入賞者
(二年) 生きる・藤本友子。冬の神話・羽石純子。女の一生・思田和江。我が青春・長田加代子。それから・岩原昌子。真実一路・加藤栄子。母・河合美弥子。若き日の思い出・篠崎紀夫。愛と死を見つめて・安部牧子。田舎教師・岸美智子。青春の彷徨・泉田光子。泥にまみれて・渡辺春美。禁じられた遊び・菊池成子。人間失格・山本弘美。女の学校・杉本垣子。

(二年) 戦争とふたりの婦人・石塚尚美。故郷・柏木久子。小さき者・佐藤くみ。伊豆の踊り子・床井則子。ひめゆりの塔・高久秀

子。ピルマの竖琴・菊池和枝。かもめのジョナサン・石戸章子。愛と死・坂本直子。羅生門・松田広子。人間失格・児島陽子。山月記・中山中。アンネの日記・星美代子。ピエロの歌・後藤久美子。異邦人・浜口尚美。幸福の限界・国井圭子。ころろ・幸田利江。復活・岩井秀子。

学校祭盛大に

普通科音楽コースの演奏も!

待望の学校祭が去る十二月六、七日の両日にわたり行なわれ、例年にない文化部の展示、科の特徴を生かした実演などが華やかに繰り広げられました。また、今年も生徒会主催の

運針競技会の優良者

本年度校内運針競技会の優秀合格者はつきのとおり。

- ▽二年の部
一位 森田 光子
二位 久野木敦子
三位 町田多美子
四位 藤原 久子
五位 加藤美智子
六位 左巻 光枝
▽一年の部
一位 床井 則子
二位 高久 秀子
三位 真瀬 尊子
四位 染谷千代子
五位 秋山 宏子
六位 福田 澄江
一位 永島 泰子
二位 川出フミ子
三位 福田 正子
四位 平出 裕子
五位 倉持 典子
六位 香取 礼子

盛大に合唱 コンクール

十月二十五日から、学年別に行なわれた恒例の校内合唱コンクール予選は、各クラスの日頃の努力が発揮され、その結果上位三クラスが決勝に進出、学校祭前日の十一月五日決勝大会が全校生を集めて体育館で実施された。講評としては前年より更にレベルアップされ、それぞれの好きが認められたとのこと。入賞クラスは次のとおり。

- ▽一位 三年十三組
二位 二年十三組
三位 一年十三組
四位 一年 六組
五位 二年十六組

気魄溢れる弁論大会

十月二十五日から三日間にわたり、各学年ごとに開催された第十一回校内弁論大会予選は、各クラスの代表者により気魄のこもった弁論が展開されました。その結果、各学年ごとに上位六名までが、

(生徒会)

広場を設け、広場シリーズ第三弾。名づけて「語らいの広場」が設置され、フォークやコントなどが、生徒の手で行なわれ飛び入りも出場するなど、お客さんにも楽しんでもらうことができました。チャリテイバザーも実行委員の指導のもとで身動きできないくらいの人出で、大盛況でした。その他、家政科による洋裁・和裁・手芸の作品展示、調理科による調理実演と即売、音楽科によるクラシック及びフォーク、ポピュラーの演奏などがあり、文化クラブでは書道写真、美術クラブの展示や和文タイプのタイプ実演。茶道クラブのお点前実演など、さまざまな催しがありました。各クラスの参加も「現代マンガ考」(二の十一)とか「私の部屋」(三の二)など時代の流行を追うようなものが出されました。また、今年初めての試みとして、大食堂にて音楽科、普通科の音楽コースの生徒によるエレクティオン演奏が行なわれ、今年の学校祭も無事終了し生徒会役員及び、実行委員の反省会などでも活発な意見が出されました。また、来年度への期待を新たに前進してもらいたいと思います。

予選通過者となり、十一月五日の決勝大会にのぞみました。

前年までは、予選・決勝ともに入賞は三位まででしたが今年からは、みなさんの実力の向上に伴い、入賞の枠が広くなり六位までが優秀賞、または努力賞となっております。

- 一位 二の十一 浜口 尚美
- 二位 一の一 丸本 経美
- 三位 二の十一 斎藤ヤキ子
- 努力賞
- 四位 二の十一 鈴木 啓子
- 五位 佐藤さち子
- 六位 中丸三千絵

### 教育報道社賞も

#### 各種作文に入賞

大東文化大学主催の昭和五十一年度高校生作文コンクールは、課題「ある新聞記事」として公募されたが、本校三年十一組、小林久美子さんが、七百六十五編の応募者の中から選ばれて「五輪大会ポイコット」の一文が見事入賞、教育報道社賞を受賞した。

その他の各種作文コンクールの受賞者はつぎのとおり。

- ◇栃木県青少年読書感想文コンクール 優良賞「罪と罰」三の十五、神山美咲子
- ◇イトーヨーカ堂全国作文コンクール 佳作「私が感銘を受けた人」
- 二の十六、岩井秀子
- ◇技能尊重の作文(栃木県商工労働部の主催) 佳作「将来の夢は調理師」
- 一の九、石原千代子
- ◇税に関する作文(宇都宮税務署主催) 佳作「租税の内容」二の十四、宇田広美

#### 書道展の入賞者

本年度の下野教育書道展の受賞者はつぎのとおり。

- 銅賞 三年八組 津吹 幸子
- 銅賞 三年十一組 鈴木 啓子

#### 写真の部で準特選

宇河地区芸術祭

本年度宇河地区芸術祭に出品した二十組

の大場志郎君の作品「あばれみこし」が準特選に入選した。

#### ▽校内珠算検定合格者

去る十月十六日実施された校内珠算検定の合格者はつぎのとおり。

- 一級 三の十四、五月女栄子
- 二級 三の十四、川島孝子、小塚富士子、鈴木裕子、二の十四、見目和子、添野恵子、宮沢紀恵、一の七、鹿文正美。

#### ▽全商英語検定合格者

本年度全商英語検定合格者は、二級合格者二名、三級合格者は三の六、小平保子外五十七名、四級合格者は二の一、染谷千代子外五十九名、計一九名におよんだ。二級合格者はつぎのとおり。三の十一、山崎智恵子。一の十、阿久津晴美。

#### 校内球技大会成績

七月九日、十四に渡って行なわれた第十三回校内球技大会は、天候にも恵まれ各クラスとも充分な練習のもとに、昨年同様バレー、バスケット、ソフトボール、及び卓球の四種目を、正々堂々と戦い合いました。熱戦の末

の男女別各種目優勝クラスは次のとおりに決定しました。

- ◇女子の部
  - バレー 一位 二の十五 二位 三の十五
  - 三位 一の十、三の五
  - バスケット 一位 三の二 二位 三の六
  - 三位 三の八、三の一
  - ソフト 一位 三の四 二位 三の三
  - 三位 三の八、二の五
  - 卓球 一位 三の五 二位 三の十

◇男子の部

- バレー 一位 三の九 二位 二の九
- 三位 二の十、三の十
- バスケット 一位 二の十 二位 三の十
- 三位 二の九、一の九
- ソフト 一位 二の九 二位 三の九
- 三位 三の十
- 卓球 一位 一の八 二位 職員
- 三位 三の九、三の十

会計 二の十五 平山 美志

- 一の十四 桑川 悦子
- 庶務 二の七 坂本 直子
- 一の三 鳥井 広美

#### 五十一年度生徒会総会終わる

昭和五十一年度生徒会総会は、六月十四日一時半より体育館において、全校生徒参加のもとに行なわれました。

五十年事業および決算報告、五十一年度事業計画および予算案がそれぞれ審議決定され、続いて議事に入りました。

議題は、音楽科三年十六組提案の「生徒会の各分野に於ける討議を活発にし、生徒会を盛り上げよう」というものでした。

総会をより合理的・効率的に運営する為、また各専門委員会の案件を総会に委ね、討議を活発にすることをねらいとする具体策も出され、いろいろな観点から意見が交わされました。しかし、時間の制限もあり、それらの意見も深くは進展できませんでした。

結局これからの総会には、特別なその他の議題を設定しないでよい、ということになりました。

## 生徒会長は浜口尚美に 熱弁・笑顔・行動力に注目

昭和五十一年度生徒会役員改選は十二月十四日(火)午後一時より体育館で行なわれ、会長ならびに副会長立候補者達は応援弁士の推薦演説のち「わたしはこういう方針で生徒会を運営したい」と熱弁を奮った。

演説終了後投票に入り、即日開票の結果、次の候補者が当選、校長の承認を得て、新年度の正副会長はとどこおりなく決定した。

- 会長 一、一四〇票 浜口 尚美 二の十二
- 副会長 三六五票 鈴木 啓子 二の十一
- 九一五票 平出 裕子 一の一
- その他の役員は次のとおり。
- 議長団 二の十一 後藤久美子
- 二の七 海老原満弓
- 二の十 大場 志郎
- 一の九 柏崎 直子

### 校内放送コンテスト入賞者

映画放送部主催の五十一年度校内放送コンテスト本選は去る一月二十日行なわれ、アナウンス、朗読部門それぞれ次の入賞者が決定表彰された。

#### ◇アナウンスの部門

- 一位 二の十六 稲葉 薫子
- 二位 三の一 長谷川和子
- 三位 一の八 飯島 衛
- 三位 二の十一 鈴木 啓子

#### ◇朗読部門

- 一位 二の十二 浜口 尚美
- 二位 三の十一 椎名香代子
- 三位 一の十一 秋庭かおる

うち長谷川和子、稲葉薫子は前年度の入賞者でもあり、その活躍が高く評価されている。

### 音楽科の学内演奏会

音楽科では、技術向上という主旨のもとに例年、月に一度行なっている。今年度も五回ほど行なわれた。その中で第三回学内演奏会

- (十月十六日、第四時限)は、父兄同席のもとで、プログラムは次のとおり。
- 1、野中友子(ピアノ)
  - ソナチネ カバレフスキー
  - 2、関 房江(クラリネット)
  - コンチェルトOP 36 フランティスカ
  - 3、薄井明子(チェロ)
  - 無伴奏チェロ組曲I パッハ
  - 4、大川由紀子(ピアノ)
  - ソナタNO 11 ベートーヴェン
  - 5、松岡千恵(ヴァイオリン)
  - ソナタ ヴィヴァルディ
  - 6、伊藤和子(声楽)
  - ファイガロの結婚より モーツァルト
  - 7、波多野睦子(マリンバ)
  - ホームスイートホーム フォーマー
  - 8、大幸昌美(ピアノ)
  - バラードNO 2 ショパン

(二年・白井茂美)

### 第一回歌曲の夕

#### 宇短大「藤の会」の発表会

後藤寿子先生の指導を受けている宇短大

- 楽科卒業生および在学生有志による、「藤の会」第一回発表会は、去る十一月二十二日栃木会館小ホールで開催、「日本歌曲の夕」にふさわしくしつとりとした雰囲気なか、満員の聴衆を前に、予定のプログラムを成功裡にくり広げた。作曲は楊枝郎先生をはじめ本学の諸先生方の作品、伴奏には川名悟、齋藤純子、茂木美智子、築木純夫の諸先生。出演者は次の皆さん方。相原佳子、安藤仁美、五味潤初枝、瀬尾裕子、時田恵、戸沢由起恵、星野澄子、細川治子、渡辺恵美子。
- == 新年かるた会 ==
- 各クラス代表が対戦
- 三年生各クラスより選抜された七十名の選手による恒例の新年かるた会が、一月二十九日(土)家庭科特別教室において行なわれた。取り札枚数により勝抜き戦の結果入賞者は次のとおり。
- 優勝 三の十三 皆川 明美
  - 二位 三の十一 安部 牧子
  - 三位 三の十一 渡辺久美子
  - 四位 三の十一 遠藤万里子

- 五位 三の十二 泉田 光子
- なお、上位三位には賞状とかるた各一箱、四、五位には賞状と国語辞典がそれぞれ賞品として贈られた。(属記)

### 若さあふれる

#### スケート教室

昭和五十一年度スケート教室は、恒例により一月十四日(金)午前八時四十分より午後三時まで、日光市所野町「日光スケートセンター」において開催された。本年度の参加者は、一、二、三三名で、バス四十八台が宇都宮より日光まで連なる大行事の一つである。

本年度は最高の晴天に恵まれ、この時とばかりに先生方と生徒たちが若さをぶつけ合い、氷が溶けんばかりの熱気にみだされていた。本年度は欠席も少なく、体育科先生方の指揮のもとに、生徒たちは整然と行動し、氷の世界をいつまでも名残り惜しそうに見つめながら帰途についた。来年は今年以上に楽しく、安全に滑走できるように計画をしていきたい。(体育科)

## 二本松へPTAが研修旅行

### 嶽温泉・霞が城・南湖園見学も

本校のPTA研修会は会を重ねること七回目、ことしはみちのくの秋色を訪ねようと、九月二十五(土)二十六(日)の両日福島県岳温泉白鳥荘において開催された。

コースは、本校を一時半に出発、宇都宮インターから高速道路を二本松インターまで飛ばして午後四時着、一泊研修会開催。翌朝九時半出発、二本松霞が城跡公園を見学、郡山市の警備ドライブインで昼食、午後一時白河南湖公園に松平素翁公の遺徳を偲び、伝説の人小原庄助さんの墓碑に詣でるなど、心ゆくまで湖畔の秋色に親しみ、かつ名物の南湖だんごを賞味、白河インターから一路帰校の途に着き、予定通り三時半本校着、無事解散した。

当日は今秋最高の好天に恵まれ、なかなかまどや、やまうるし、ぬるなどで早くも紅らみ始め絶好の行楽日和。

二本松市近くに入っからは高村光太郎、

智恵子さんと親しい交渉をもつ手塚武先生から一時間にわたり、光太郎・智恵子についての車中講義がかねて準備された資料にもとづき行なわれ、翌日の霞が城公園における夫婦詩碑見学に当たり大層参考になった。

宿舎到着後は直ちに研修会に入り、PTA支部総会の持ち方その他を議題に二時間半にわたって話し合いを行なった。

当日の出席者は次のとおり。

▽高山源吉、岩下孝宏、篠崎キミエ、釜辺金次郎、竹沢栄、永山松雄、渡辺光雄、六川彦次、斎藤文夫、植野由一、中島至一、吉沢要、大森一夫、浅香満一、加納浩、増田信夫、浅野光紀、国谷大三郎、福田一男、小田博、稲葉稔、印南栄治、田崎久雄、武田仁作、早川強、石川昭三、大塚喜市、芝野勝夫、毛塚宗一、藤田伸夫、阿久津靖典、藤盛正雄、浜野林、加藤道身、吉永武雄、大塚正雄、佐藤靖、永嶋和夫、青木健一、宇都城昇、木村靖、

丸山富弥。  
▽学校側―須賀淳、手塚武、太田茂雄、三矢  
静江、金田敏彰。

### 歳末募金を寄託

下野・栃木両新  
聞社等を通じて

生徒会では今年も全生徒に呼びかけ歳末助  
け合い募金を行なったところ、約十二万の額  
に達したので、新聞社、地区役所などを通し  
て寄託した。以下は栃木新聞十二月二十一日  
付掲載記事。

宇都宮短期大学附属高校の生徒会の代表が  
二十日、栃木新聞社を訪れ、歳末助け合い募  
金三万四千八百六十五円を寄託した。

訪れたのは梁木英郎同校教諭に引率された  
篠崎紀夫生徒会長、坂田町子副会長ら生徒会  
役員四人。篠崎君ら同校生徒会は、さる十一  
月の学校祭で歳末助け合い募金を企画、会員  
二千六百人に呼びかけて、家庭用品、手作りの  
アクセサリー、古本などを持ち寄ってパザ  
ールを開いた。その結果、二日間の学校祭の  
期間で、一つ百円から二百円前後のものがと

ぶように売れた。同パザールは同校生徒会が  
毎年行っているものだが、ことは、このほ  
か台風災害にも会員の協力を呼びかけ募金を  
行っている。(栃木新聞より転載)

### 好評！ 母校への賛助出品

―星が丘中学の卒業生ら―

昭和五十一年度星が丘中学校文化祭に当  
り、恒例により出身本校生の作品を出品展示  
したところ、主として家政科の皆さんが協力、  
好評を博しました。

- |            |       |
|------------|-------|
| 1 道行コート    | 望月 信子 |
| 2 四つ身(ウール) | 小糸ルミ子 |
| 3 文化刺しゅう   | 佐藤さち子 |
| 4 文化刺しゅう   | 久保 早苗 |
| 5 こぎん刺しゅう  | 高橋 幸子 |
| 6 掛軸       | 阿久津法子 |
| 7 三角ストール   | 藤井 隆江 |

### 浜野シゲノ先生を悼む

本校教諭として、大東亜戦争下の苦難の時  
代を経、戦後まで引つづき勤務され、学校発

展のため貢献された浜野シゲノさんが病気の  
ため逝去されました。以下の弔辞は十二月十  
一日葬儀に当たり、校長が靈前において朗読  
したものです。謹んでご冥福を祈ります。

### 弔 辞

本日ここに浜野シゲノ先生の告別式にあ  
り哀惜のおくやみがなく、一言弔辞を申しの  
べさせていただきます。

先生は昭和のはじめ、大学卒業と同時に私  
の学校に勤務され、戦前・戦中・戦後と十数  
年の長きにわたって家庭科担当の教諭として  
本校生徒の教育に尽瘁されました。とくに戦  
争中の激動の時代にあつて、よく私の父・校  
長を助け、幾多の困難を乗り越えて本校の発  
展に寄与されましたことは、忘れえないこと  
ろであります。

この間、かつて私の父が創立宇都宮工業学  
校に勤務していた関係から、同じく同校に勤  
務しておられた御夫君と結ばれ、幸福な  
御家庭を営まれたのであります。しかしなが  
ら、拡大する戦火は、御夫君を大陸の戦野に  
送り出し、このため、先生は長い間、幼いお  
子様をかかえて、その留守を守り、同時に学

校の職務に精励されました。

先生は頭脳明晰にして、しかも人情に厚く、  
多くの生徒たちからその高い人徳を慕われて  
おりました。昭和二十年七月十二日深夜、宇  
都宮大空襲の際に、学校と私の自宅が同時  
に焼かれて、呆然としておりましたときに、  
当時大変な貴重品でありました白米を炊いて  
握りめしをつくり、大きな容器一杯につめて  
自転車で届けてくださった先生の御厚情は、  
私の終生忘れえないところであります。

戦後しばらくして、御夫君が無事帰還され  
ましたので、それを機会に、先生は学校を退  
職されて、平和な家庭生活に戻られたのであ  
ります。その後は同じく教諭にあられた御夫  
君が、生徒の教育に、また野球にその全精力  
を傾けられるのを先生は家庭にあつてしっか  
りと支えてこられたのであります。

現在、お子様たちも立派に成人され、お孫  
さんにも恵まれて、幸福な日々を送っておら  
れたのであります。にわかに病をえてなく  
なられましたことは、まことに痛惜にたえま  
せん。とりわけ長い間苦楽を共にされた御夫  
君のおなげきは察するに余りあるところであ  
ります。

私といたしましても、半生を本校の発展の

ためにつくされました先生とお別れすること  
は、限らない悲しみであります。しかしなが  
ら会者定離は世の定め、先生の安らかな御冥

福を心からお祈りして弔辞といたします。

昭和五十一年十二月十一日

宇都宮短期大学附属高校長 須賀 淳



## 主体は学友会支部

### 盛んな社会奉仕活動

本校学友会の活動は年毎に盛ん  
なり、各方面から感謝されているが、  
今年度は石橋支部が多年の労を報わ  
れて町当局から感謝状を受ける等各  
支部共活発に活躍した。

### 十一月二日付下野新聞掲載

#### 十年間も奉仕活動

##### 石橋支部に感謝状

高野石橋町長は十一月一日、宇都大附属高  
校学友会石橋支部長(丸山久美子支部長)に、  
十年間にわたる奉仕活動をたたえ、感謝状を  
贈った。

同会石橋支部は十年前ごろから国鉄石橋駅  
の清掃活動を始めた。このため町長から表

彰され、これが校内放送で伝えられたことか  
ら、各市町村にある同校学友会の各支部で公  
共施設で奉仕活動を始めるきっかけをつくつ  
た。

石橋支部は現在、一年から二年生まで三十  
八人の生徒が、十年前から続けている石橋駅  
の清掃はもちろん六年前から夏・冬休みなど  
に三百間ずつ町立第一、第二保育所を訪れ、  
除草、清掃奉仕や、所内の飾り付け、園児た  
ちとの遊戯などで積極的な奉仕活動を行って  
いる。このため町で感謝状の贈呈となった。

この日は、宇都大附属高の渡辺欣子教諭、  
同校PTA石橋支部の稲葉稔支部長らとともに、  
三年生の丸山久美子、渡辺美代子学友会  
石橋支部正副支部長が石橋町役場を訪れ、高  
野町長から感謝状を受けた。